



会員寄稿

交通事故ゼロを目指して

生徒課 伊藤 圭一

本校における昨年度の交通事故件数は4件で、そのうち3件が登校時の自転車事故でした。大事には至りませんでしたが、3件とも同じ場所（肱川橋から大洲市役所に向かうなだらかな下り坂）で、雨の日は特に滑りやすく、また郵便局方向へ右折する自動車と接触しやすい危険個所です。私も時々プライベートで自転車に乗りますが、自動車やバイクよりも不安定でヒヤッとすることがあります。生徒の皆さんは、重い荷物を載せたり背負ったりの運転なのでなおさらです。もしもの時のためにしっかりと顎ひもを締めてヘルメットをかぶり、交通ルールを遵守して被害者にも加害者にもならないよう安全運転に努めてください。もちろん徒歩通学生やわれわれドライバーも同様です。大きな事故がないことを切に願っております。

出典 1977年発行『交通遺児作文集一改訂版一 玉井善臣編』

天国にいるおとうさま 中島 穰（10才）

ぼくの大すきだった おとうさま
ぼくとキャッチボールをしたが
死んでしまった おとうさま
もう一度あいたい おとうさま
ぼくは
おとうさまのしゃしんを見ると
ときどきなく事もある
だけど
もう一度あいたい おとうさま
おとうさまと呼びたい
けれど呼べない
どこにいるのおとうさま
もう一度ぼくをだいて おとうさま
ぼくがいくまで まってて
もう一度ぼくとあそんで おとうさま
おとうさま ぼくといっしょに勉強してよ
ぼくにおしえてよ
おとうさま どうして三人おいて死んだの
ぼくは
今までしゅっちょうしてると思っていた
おとうさま まってて ぼくが行くまで
おとうさま おとうさま
もう一度「みのる」って呼んで
ぼくもおとうさまと呼ぶから
ぼく「はい」と返事するよ
ぼくは かなしい
おとうさまがいないと